

日新新聞

伯國都市マニラ
カレン街一〇〇ナ
発行所
日新新聞社
本紙定額年六千五百
外埠郵費共百廿五

レコードは
コロムビア時代

獨佛關係好轉の前兆

ラバル復歸を條件に 近く協調會議再開か

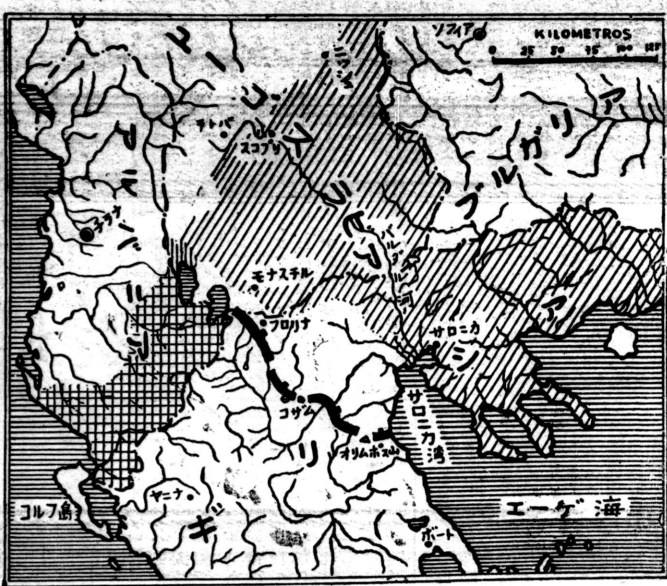
休戦状態から平和條約へ

(ニューヨーク廿四日同盟)ラバル放逐事件以来中絶中の獨佛協調會議は近く再開される模様であるが、右に開し廿日のUPヴィンシー電はヒトラー総統はラバルが「何んかの資格」においてヴィンシー政府に復歸すべきことを條件として會議再開に同意したと傳へられ、獨佛としてはフランスの協調態度如何によつては現在の兩國休戦状態を修正して、恒久的な平和條約の締結にまで話を進めようとの意向である旨を通過したといはれる(野眞は問題になつたラバル氏)

算を亂して大潰走 敗北いよいよ濃化

獨軍、テッサリア平原完制

獨軍のテッサリア平原完制は、昨昨日ラツツサを陥れ今日またラツツサを占領、かくてテッサリア平原を制するに成功し、獨軍はユーゴ、ギリシヤ國境より百三十キロのギリシヤ中南部に進出したわけであり、今や平原地帯に入つた獨軍機械化部隊の行動は全く自由となつたので、英軍に密接してこれを追撃、聯合軍は算をかくして南方に敗走中である。かくてビンドス山脈の東方に



テッサリア平原完制(四月十五日頃)



ヒトラー

歐洲の霸王ヒトラー

UP電 一體どんな人物か

ヒトラーは一九三三年その政治的野心を露した。彼はドイツを統一し、ヨーロッパを支配する。彼の行動は世界に衝撃を与えた。彼は軍事力と外交手腕を駆使し、獨逸を世界大國へと押し上げた。彼の野望は、世界の注目を集めた。



線戰支中 - 戰蕩掃敵殘
Operação de "limpeza" dos inimigos remanescentes (China Central)

ローマを爆撃せば 斷乎アテネを猛襲

獨、英に竹筵返し宣言

ローマを爆撃すれば、斷乎アテネを猛襲する。獨逸は英領土に竹筵返し宣言をした。これは、獨逸が英領土に攻撃すれば、アテネを攻撃する用意があることを示している。この宣言は、地中海地域の緊張を高めている。

聯合軍さらに後退 死力を盡し獨軍防衛

聯合軍はさらに後退し、死力を盡して獨逸軍を防衛している。獨逸軍はテッサリア平原を完制し、聯合軍を押し返している。この状況は、聯合軍にとって非常に不利である。



松岡

顏の外交は満點 日ソ條約も意想外の早業

松岡さん頗る満悅

松岡外相の外交は満點と評されている。日ソ條約の締結は、松岡外相の外交手腕の証明である。松岡さんはこの結果に非常に満悅である。

獨軍に大打撃 英側司令部の發表

獨逸軍に大打撃を与え、英側司令部が發表した。この報告は、獨逸軍の士気低下を示している。英軍は獨逸軍を押し返している。

將校五百、兵廿四万 北部ユーゴの投降捕虜

北部ユーゴスラヴィアの將校五百名、兵廿四万人が投降した。これは、獨逸軍の勝利を示している。獨逸軍はユーゴスラヴィアを占領している。

死ぬまで戦はん! 遂に最後の關頭へ

死ぬまで戦はん! 遂に最後の關頭へ。ギリシヤは獨逸軍と激しい戦いを繰り出している。ギリシヤ軍は士気を高く保っている。

宛外れた米國側 樞軸、ソ聯離間策に狂奔

宛外れた米國側、樞軸、ソ聯離間策に狂奔。米國はソ聯を離間させる策を講じている。これは、米國の外交政策の転換を示している。

東京着か けふ夕刻

東京に着か、けふ夕刻。獨逸軍の進軍が東京に近づいている。市民は避難している。

希臘正教の復活祭 空襲警報に怯ゆ

希臘正教の復活祭、空襲警報に怯ゆ。希臘正教の復活祭に際して、空襲警報が発せられた。市民は避難している。

獨機大舉し倫敦へ 第二回爆撃を敢行

獨機大舉し倫敦へ、第二回爆撃を敢行。獨逸機は倫敦を大規模に爆撃した。これは、獨逸軍の士気を鼓舞している。

アテネ到着

アテネ到着。獨逸軍はアテネに到着した。市民は避難している。

出進の腕

麻が立派に 乗り出す東京 麻絲紡績會社 出まます!!

北巴拉ナでの試作結果は上乘 太氏所有地二百アルケル

山くづれて埋没!

邦人三名無残の死 外出中で助った隣家の五名

ストンサの惨事

去る十月に於ける宮中(ニ)死んでしまった、もう一軒

獨身の夫 痺切らして

珍妙「手紙結婚」遂に破綻

去る十月に於ける宮中(ニ)死んでしまった、もう一軒

ブラジル 水泳選手を招待

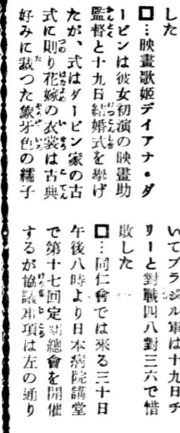
開く「日獨伯」國際試合 水上王國ニッポンの計畫

本年度日本選手権大會が来る 八月十六、十七、十八日の三日

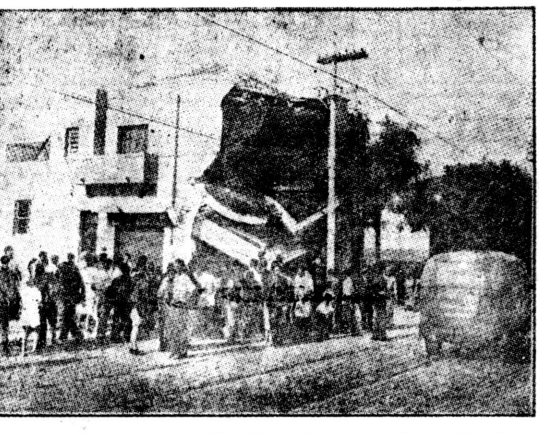


機關車の 放火を防ぐ

山火事の心配これで解消 木材を使用してゐるが、こればなやうに工夫したもので



昭和三十五年(一九〇年) 昭和三十五年(一九〇年) 昭和三十五年(一九〇年)



有位有勳者は何人? 二千六百年祝典記念章を授與



街の戦術家大亂闘 路上で時ならぬバルカン戦争

沫飛戦洲歐 聖市總領事館で調査

御下宿 通勤及通学に便利 位置閑静、料、宿、学生、勤人、貸間もあり

魚問屋スミキ 魚問屋スミキ SANRYO SUZUKI

大阪商船 發着廣告

Table with shipping schedules including destinations like 東亞, 南阿, 西阿, 關東, 關西, 南阿, 西阿, 關東, 關西.

目下賣出中 菊池章子 一沫の哀調に魅

四月新譜傑作 見よこの豪華布陣

Table with musical performance details including song titles and performers.

Advertisement for a film or performance featuring 影法師さん and other actors.

逐年發展過程にある ゴム製品製造工業 本年は輸出に轉じやう

西曆一八〇〇年に世界で最初生産された天然ゴムは、その後、工業の発展と共に、その用途が益々拡大されてきた。特に、自動車、船舶、航空機、電機工業など、現代の工業に不可欠な材料として、その地位を確立してきている。

本年は輸出に轉じやう、これは、国内市場の需要が減少し、海外市場への供給が急増していることを示している。特に、北米、南米、ヨーロッパなど、主要な市場への輸出が大幅に増加している。

この背景には、国内の工業生産が停滞していること、また、海外市場の需要が依然として旺盛であることが挙げられる。特に、自動車産業の回復が、ゴム製品の需要を大きく押し上げている。

今後も、天然ゴム製品の生産は、引き続き増加を続けることが予想される。特に、高品質な製品への需要が増えることが、今後の市場動向を左右するであろう。

今期伯棉は 質量共に向上

今期伯棉は、質量共に向上、これは、国内の棉花生産が、品質とともに、数量も増加していることを示している。

特に、長絨綿の生産が大幅に増加しており、これは、国内市場の需要が増えていること、また、海外市場への供給も増加していることによる。

品質の向上は、主に、栽培技術の進歩、および、収穫後の処理技術の向上による。これにより、棉花の繊維がより強く、長く、滑らかになっている。

今後の棉花生産は、引き続き、品質と数量の両方を向上させることが重要である。特に、長絨綿の生産をさらに拡大し、品質をさらに向上させることが、今後の目標である。

歐戦の影響と ブラジルの経済

欧戦の影響とブラジルの経済、これは、欧米戦争がブラジルの経済に与えている影響を分析している。

欧米戦争は、ブラジルの経済に大きな影響を与えている。特に、輸入品の不足、および、輸出品の価格上昇が、国内の物価を押し上げている。

また、欧米戦争は、ブラジルの工業生産を促進している。特に、軍需品の生産が増えていること、また、国内市場の需要が増えていることによる。

今後のブラジルの経済は、欧米戦争の影響をどうにかするかが重要である。特に、輸入品の不足を解消し、輸出品の価格を安定させることが、今後の課題である。

川油ハリハ

川油ハリハ、これは、川油の価格が暴落していることを示している。

川油の価格は、急激に下落しており、これは、市場の需給バランスが崩れていることによる。

今後の川油の価格は、引き続き下落を続けることが予想される。特に、市場の需給バランスが改善されない限り、価格は下落を続けるであろう。

急募 青年 (年齢強固) 数名

急募 青年 (年齢強固) 数名、これは、急募の求人を募集している。

求人は、年齢が二十歳以上、四十歳以下、男性、未婚、高卒以上、という条件である。

勤務先は、本報社であり、勤務地は、本報社本社である。

興味のある方は、本報社に直接お問い合わせください。

革新の怒濤

革新の怒濤、これは、革新の怒濤が社会に波及していることを示している。

革新の怒濤は、社会のあらゆる分野に波及している。特に、政治、経済、文化など、社会のあらゆる分野に波及している。

革新の怒濤は、社会を大きく変革している。特に、社会の進歩を促進していること、また、社会の発展に貢献していることによる。

今後の革新の怒濤は、引き続き、社会を大きく変革していくことが予想される。特に、社会の進歩をさらに促進し、社会の発展をさらに推進することが、今後の目標である。



今期吉星、これは、今期の吉星が輝いていることを示している。

社告

左記の諸君方へ出張させていただきます。出張先は、以下の通りです。

- 東京方面：田中 幸雄
- 神奈川方面：山本 貞男
- 山梨方面：吉川 光男
- 長野方面：片山 英太郎
- 群馬方面：杉田 定美
- 茨城方面：山田 田
- 栃木方面：北村 正治
- 群馬方面：北村 正治
- 群馬方面：北村 正治
- 群馬方面：北村 正治

NÚCLEO COLONIAL SANTA CATARINA

Escritorio: RUA LIVRE, 44
Telefone: 2-4838 - Caixa Postal, 1875 - São Paulo

諸君！最後の勝利を得られよ。これは、諸君の勝利を祝っていることを示している。

本年は更にカツホエロン、これは、本年は更にカツホエロンが実現していることを示している。

是非御視察の程を御奨め致します、これは、是非御視察の程を御奨め致しますことを示している。

温泉

新時代の新様式を、これは、新時代の新様式を提示している。

温泉は、健康と癒しをもたらす素晴らしい場所です。ぜひ一度温泉を楽しんでください。

新種子

青大長胡瓜の、これは、青大長胡瓜の新種子を提示している。

新種子は、品質が高く、収穫量が多いです。ぜひ一度試してみてください。

養蠶家募集

養蠶家募集、これは、養蠶家を募集している。

募集条件は、年齢が二十歳以上、四十歳以下、女性、未婚、高卒以上、という条件である。

興味のある方は、本報社に直接お問い合わせください。

ARMAZEM KAIKO

Caixa Postal, 1602
Seção de Adubos
Caixa Postal, 1603 - São Paulo

青大長胡瓜の、これは、青大長胡瓜の新種子を提示している。

新種子は、品質が高く、収穫量が多いです。ぜひ一度試してみてください。

TRATADO DE PAZ TEUTO-FRANCES

O reinício das conversações

Grandes concessões serão feitas por parte da Alemanha

NOVA YORK, 20 (D.) — As negociações de conciliação teuto-francesa que tinham sido interrompidas desde o caso da expulsão do sr. Laval, serão reiniciadas brevemente. Segundo telegramas da agência "United Press" procedentes de Vichy, sabe-se que o chanceler Hitler concordaria em recomençar as ditas negociações com a condição de readmitir o sr. Laval no governo de Vichy. Sabe-se ainda que, conforme a atitude da França para a conciliação, a Alemanha procurará envidar todos os esforços para solucionar de uma vez para sempre a situação reinante entre os dois países. Poderá mesmo chegar a assinar um tratado de paz perpétua. Sobre a data da abertura dessas conversações ainda nada se sabe. Entretanto, o vice-ministro-presidente, sr. Darlan rumará em breve para Paris, onde deverá conferenciar com o embaixador alemão sobre os pormenores do reinício das negociações de paz.

Pelos pontos de vista que seguem entende-se que os alemães vão dar vantagens aos

Chegou o momento da Grécia!

O dramático apelo do rei Jorge II assinalaria o começo de um período grave — Prosseguem vigorosamente o avanço dos alemães — Desintegração do exército grego — Os italianos desalojaram os gregos da Albania

ATENAS, 21 (U. P.) — Nos círculos competentes admitiu-se que chegou o momento da Grécia.

Acrescenta-se que o dramático apelo do rei Jorge II, para que se lute até a morte assinala o começo de um período grave.

LONDRES, 21 (U. P.) — O "Daily Mail", diz hoje, num editorial: "Precisamos promover a retirada da Grécia quando os helenos julgarem ter chegado o momento. Esse movimento parece ser inevitável".

OS ALEMÃES CONTINUAM ATACANDO FORTEMENTE

ATENAS, 20 (U. P.) — Segundo informa o Ministério da Imprensa, as notícias recebidas hoje da frente anunciam que os alemães continuam atacando fortemente ao longo de toda a linha. As forças germanicas

fracassaram no seu esforço para obter um êxito decisivo. As perdas das forças alemãs são elevadíssimas. Os germanos lançam à luta um sem número de aviões. Na intensa luta que foi travada ontem em torno de Kalambaka, os germanicos nada conseguiram, tendo ocorrido o mesmo no Monte Olimpo e no desfiladeiro de Sarandoporon.

500 OFICIAIS E 24.000 SOLDADOS IUGOSLOVENOS PRESOS SOMENTE NO NORTE DA IUGOSLAVIA

BERLIM, 20 (U. P.) — O Alto Comando alemão informou como prisioneiros 500 oficiais e 24.000 soldados iugoslavos, somente no norte da Iugoslávia. Nessa oportunidade também foi anunciada a prossecução da marcha germanica na planície da Tessalia.

SINTOMAS DE DESINTEGRAÇÃO NO EXERCITO GREGO

BERLIM, 20 (U. P.) — O Alto Comando alemão informou que o exército grego já está dando sintomas de desintegração, nas posições ao leste dos Montes Pindos.

"AS TROPAS GREGAS E IMPERIAIS PROSSEGUEM SUA RETIRADA" — DIZ O COMUNICADO BRITANICO

CAIRO, 20 (U. P.) — O Alto Comando das forças britânicas expediu o seguinte comunicado:

O sr. Stalin, pessoalmente, tratou de atrasar o trem, do sr. Matsuoka, para concluir o pacto de neutralidade

MANDCHULI, 20 (D.) — O ministro Matsuoka concedeu hoje, à noite, uma entrevista, no salão nobre da estação de Mandchuli, aos jornalistas. Mais de 40 jornalistas japoneses, mandchus e chineses o aguardavam.

A pergunta:

"Conseguiu realizar todos os planos que havia feito antes da partida?"

O ministro Matsuoka respondeu, em linguagem de discurso:

"Encontrei-me com os chefes da Alemanha e Itália e consegui ótimos resultados que compensaram perfeitamente as fadigas da longa viagem. Não esperava que o pacto com a União Soviética se realizasse em tão curto espaço de tempo. No dia 13 fui me despedir do sr. Stalin. Propuseram-me concluir o pacto, ao que respondi:

"Mas faltam apenas algumas horas para o pacto partir".

O sr. Stalin, pessoalmente, tratou, então, de atrasar a partida do trem. Quis declinar dessa gentileza, pois eu sei, por experiência própria (o sr. Matsuoka foi presidente da Estrada de Ferro Sul-Mandchuriana) como é difícil modificar o horário de trens. Mas o senhor Stalin insistiu e acabamos assinando o pacto".

O sr. Matsuoka narrou assim um aspecto interessante da Rússia ditatorial.

vantajoso para a Rússia ou para as partes contratantes. O sr. para o Japão, declarou que toda conclusão de pactos internacionais é sempre vantajosa para as partes contratantes. O sr. Matsuoka acrescentou que não teria concluído qualquer pacto que não fosse vantajoso para o seu país.

DA PARTIDA DE DAIREN

DAIREN, 21 (D.) — O ministro Matsuoka que devia deixar esta cidade hoje cedo, adiou a sua viagem para a tarde, devido às más condições atmosféricas reinantes nos seus da Coreia, mas prevê-se que a sua partida dar-se-á amanhã, devendo chegar às 16 horas, mais ou menos, em Tokyo.

COMENTARIO DO "PRAVDA"

MOSCOW, 19 (Stefani) — O "Pravda" comenta em um longo artigo o pacto russo-japonês e observa que ele é um instrumento de paz. Escreve que certos jornais anglo-americanos, e mesmo os círculos políticos de Washington, tentaram diminuir a importância do pacto enquanto o "New York Times" declarou que o pacto deu graves golpes nas esperanças da adesão da Rússia aos países que combatem as potências do "eixo". A imprensa anglo-americana acentua que o pacto tornou os planos dos dirigentes de Londres e Washington. E

claro que Washington acompanhou com atenção as relações nipo-soviéticas. E esse respeito uma correspondência Reuter em Washington informou que o governo americano estava disposto a travar amigáveis relações com Moscou e que depois da assinatura do pacto modificou sua atitude a respeito da U. R. S. S. O "Pravda" observa que as intenções amigáveis tinham por fim perturbar a opinião pública americana enquanto tirava a atenção do Japão das vulneráveis posições americanas no Pacífico e fomentar um conflito entre a U. R. S. S. e o Japão como foi claramente revelado pelo artigo do sr. Lipman no "Herald Tribune".

O jornal "Pravda" põe em ridiculo certas alegações de jornalistas estrangeiros segundo as quais o pacto tinha um caráter anti-alemão, esquecendo-se os jornalistas de que o pacto foi assinado sob pressão alemã. Os jornais escrevem que essas hipóteses são absolutamente ridículas. Evidentemente os círculos anglo-americanos calcularam que as relações entre os alemães e soviéticos seriam agravadas e que as relações russo-japonesas seguiriam as mesmas pegadas. Isso explica as notícias fantasiosas publicadas pela imprensa anglo-americana concernentes à pretensa agravamento das relações entre Moscou e Berlim. O "Pravda" conclui afirmando que os comentaristas anglo-americanos não compreenderam que a U. R. S. S. segue uma política de independência ditada pelos interesses soviéticos e pela vontade de paz.

quem deu a sua aprovação aos mais modernos modelos de aviões de bombardeio, canhões e "tanks", com os quais o exército alemão conseguiu seus grandes êxitos.

Além disso é considerado autor dos planos para a nova ordem que os alemães esperam estabelecer na Europa.

Durante as hostilidades o "fuhrer" passou a maior parte do seu tempo em conferências, inclusive reuniões diárias com algumas das principais figuras do Reich, entre elas Goering, Raeder, Brauchitsch e Rommel. O chanceler raramente se deita antes da madrugada, mas gosta de levantar-se tarde.

Agora essas obrigações a guerra mudou muito pouco os seus hábitos. Continua sendo rigorosamente vegetariano e detesta o fumo, bebe pouco, apenas pequenas quantidades de cerveja. As autoridades informam que o "fuhrer" tem um cartão de racionamento como todos os demais alemães e que limita-se rigorosamente às restrições impostas. Como também nunca foi muito dado ao café, não sente os efeitos da escassez atual.

Apesar dos rigores da tarefa que assumiu em toda a Europa, Hitler conserva sua aparência juvenil, com traços apenas mais marcados do que em 1939. Apareceram-lhe alguns fios de cabelos brancos nos bigodes, mas não se nota muito a mudança de sua fisionomia.

Algumas vezes o chanceler usa óculos, quando lê no seu gabinete mas não os usa quando

O chanceler Hitler

BERLIM, 19 (U. P.) — Adolfo Hitler, o homem que nasceu na pobreza, há pouco mais de meio século, um dos muitos desconhecidos arrastados pela corrente da adversidade em consequência da derrota alemã na última guerra mundial, celebrará amanhã o seu 52.º aniversário e a bandeira Swastika, símbolo do seu gênio político militar, tremulará nas casas de 100 milhões de súditos alemães, desde o Oceano Ártico ao Mediterrâneo.

"A força aérea alemã empreendeu, ontem, à noite, a segunda incursão em represália contra Londres, pelo renovado ataque dos aviões britânicos aos bairros residenciais de Berlim, na noite de 17 a 18. Nesta nova incursão, em grande escala, muitas centenas de aviões lançaram tremendas cargas de bombas explosivas e incendiárias sobre a cidade. Os grandes incêndios que estalaram, visíveis de grande distância afetaram particularmente o cotovelo do Tamisa, os diques de Millwall, Borough e Greenwich, pois iluminavam uma enorme área e foram provas seguras dos terribéis efeitos deste ataque em represália provocado mais uma vez pela Inglaterra".

Ohomem que ganhou a cruz de guerra por seu valor e terminou sua atividade na guerra passada com o grau de cabo, prepara-se para passar o seu aniversário com alguns dos combatentes dos poderosos exércitos que mandou para as conquistas político-militares, da Renânia, Áustria, o sudeste, a Tchecoslováquia, a Polónia, Noruega, Dinamarca, Holanda, Luxemburgo, Bélgica, França, Cingapura e Iugoslávia.

Hitler subiu ao poder em 30 de Janeiro de 1933, com uma Alemanha debilitada, rodeada por países, alguns dos quais rigorosamente neutros e outros hostis ao seu regime e agora, nos primeiros meses do nono ano do regime nazista, quasi todos os inimigos da Alemanha foram destruídos, restando, na Europa como únicos adversários a Grã-Bretanha e a Grécia.

No dia primeiro de Setembro, numa breve ordem do dia dirigida ao seu exército, Hitler anunciou que se tinha iniciado a conquista da Polónia e jurou que não abandonaria o uniforme militar alemão até que a guerra tivesse terminado. Mantive sua palavra, e amanhã, comparecerá no seu quartel de campanha envergando a farda cinzenta, tendo a "cruz de ferro" como única condecoração.

De fonte chegada a Hitler afirmou-se que foi o próprio chanceler quem desenvolveu as novas idéias de estratégia e

tropas gregas, tendo os exércitos italianos (o 9.º e o 11.º) chegado a todos os pontos importantes da fronteira greco-albanesa. As tropas gregas retêm ainda Porto Edda, em território da Albania, situado no extremo sul desse território. Algumas informações não oficiais, todavia, dizem que esse porto também já está sob controle italiano.

Segundo o diário "La Tribuna", as forças gregas que se retiraram para uma forte linha defensiva situada ao longo do rio Kalamas, flanqueada pelas montanhas do Pindo, podem opor-se ao avanço dos efetivos italianos, pois essas defesas contam com construções de cimento para praça de artilharia, casamatas e cercas de arame farpado, além de armadilhas para "tanks" e um amplo sistema de trincheiras. Caso o inimigo não possa manter a linha do Kalamas, então será forçado a retirar-se mais ainda para o sul. A última linha de resistência provavelmente será aquela que corre desde Arta a Lamia, na parte mais estreita da península helênica. Essa será a sua última e, certamente, desesperada resistência na defesa de Atenas.

PARA IMPEDIR A REPETIÇÃO DO EPISODIO DE DUNKERQUE...

LONDRES, 21 (U. P.) — Em sua edição de hoje, o "Daily Mail" antecipa, abertamente, a evacuação do Exército britânico da Grécia. Faz notar, contudo, que o momento para essa medida será decidido pelos gregos.

A evacuação terá por objetivo impedir a repetição do episódio de Dunkerque, o qual, muito embora tenha sido uma retirada feliz, impôs um grande esforço à capacidade defensiva da Grã Bretanha.

OS BULGAROS INICIARAM A OCUPAÇÃO DA ZONA MACEDONICA

SOFIA, 20 (U. P.) — Informa-se oficialmente que as tropas bulgaras iniciaram, ontem, a ocupação da zona macedônica que outrora lhe pertenceu, tendo estabelecido seu quartel geral em Skopje.

Acrescenta o comunicado que as forças nacionais chegaram às cidades de Zarirod e Piro, sendo que, a ocupação vai o plano traçado e que as tropas bulgaras são recebidas com calor em todas as partes.

OS PILOTOS ALEMÃES NÃO BOMBARDEARÃO ATENAS

ROMA, 20 (U. P.) — A "Agencia Stefani" em um despacho procedente de Berlim diz: "Soube-se nos círculos militares berlinenses que como resposta à ameaça de Churchill, de bombardear Roma, foram baixadas instruções aos pilotos germanicos para que evitem bombardear Atenas, cuja importância histórica é bem reconhecida.

Não obstante, caso Roma seja eventualmente bombardeada, tanto a Itália como a Alemanha responderão com bombardeios de represália".

do aparece em público.

Seus discursos e mensagens são impressos em caracteres maiores, para que os possa ler com maior facilidade.

EM HSING-KING

HSING-KING, 21 (Stefani) — O ministro do Exterior do Japão, Matsuoka, contestando as declarações dos que afirmam ser o Pacto de neutralidade entre a Rússia e o Japão unicamente

A "Luftwaffe", realizou uma segunda incursão a Londres em represália ao ataque de aviões britânicos a Berlim

BERLIM, 20 (U. P.) — O comunicado do Alto Comando da "Luftwaffe" de ontem à noite contra Londres, tem o seguinte teor:

O aniversário do Presidente Vargas

Foi comemorado em todos os estados brasileiros com invulgar brilhantismo

A grande homenagem das forças aéreas nacionais

S. LOURENÇO, 19 — O presidente Getúlio Vargas passou o dia de hoje na fazenda Jardim, em Itanhandú, de propriedade do cel. João Scarpa, ali chegando ontem à tarde, em companhia do governador Benedito Valadares. Pela manhã, o chefe da nação realizou uma caçada nas serras daquela propriedade, somente regressando à fazenda por volta do meio dia. Durante a caçada, o presidente entreteve-se em prolongada palestra com os colonos, mostrando-se particularmente interessado em ouvir as expansões de um deles, o de nome José Maria, pai de treze filhos, declarando, por fim, o chefe do governo que ia providenciar o internamento dos dois filhos mais velhos do lavrador numa das escolas profissionais do Rio. As primeiras horas da tarde, foi servido um churrasco, depois do que o presidente da República percorreu demoradamente as instalações da fazenda e a fábrica de queijo e usina de pasteurização de leite. Recebeu, após, a visita do comandante Francisco Meilo, que viera do Rio à frente de uma das esquadilhas do Rio para dar os cumprimentos da aviação nacional ao presidente, pelo seu aniversário. As 16 horas, o chefe do governo retirou-se para os seus aposentos, para trabalhar.

A MISSA CAMPAL

A missa campal, celebrada no Parque de São Lourenço, por frei Benigno, teve grande assistência, estando presente a sra. Darcil Vargas, a sra. cel. Benjamim Vargas, elementos dos gabinetes civis e militares das presidências, além da população em peso da cidade. Terminada a missa; o conego Olimpio de Melo pronunciou um discurso, fo-

calizando a obra do presidente Getúlio Vargas.

AS ESQUADRILHAS AEREAS SOBRE S. LOURENÇO

Duas esquadilhas das Forças Aéreas Nacionais voaram sobre a cidade, numa revoadada de homenagem ao presidente Getúlio Vargas. Os aparelhos fizeram evoluções sobre o Hotel Brasil, antes de regressar ao Rio. Os aéreos clubes de várias cidades do interior de Minas e São Paulo se fizeram representar, participando na revoadada com seus aparelhos. Após as evoluções sobre o edifício do Hotel Brasil, os aviões rumaram para a fazenda Jardim, onde o presidente Vargas está passando o dia. No momento em que os demais aparelhos da esquadilha faziam evoluções sobre o local, o cel. Melo efetuou magnífica aterragem no campo de pouso local, indo seus tripulantes até o Hotel, onde apresentaram cumprimentos à sra. Getúlio Vargas.

CONCENTRAÇÃO ESCOLAR EM S. LOURENÇO

S. LOURENÇO, 19 — Em comemoração à data natalícia do presidente Vargas, realizou-se hoje uma concentração escolar, na qual tomaram parte 5.000 crianças. Em todos os colégios os professores falaram sobre o significado do dia da juventude brasileira, e sobre a personalidade do presidente. Após a concentração todas as crianças conduzindo bandeiras nacionais

se dirigiram para a missa campal em frente à Igreja do Parque. Enorme multidão assistiu a cerimônia religiosa, destacando-se na primeira fila a sra. Darcil Vargas, e coronel Benjamim Vargas, desembargador Florêncio de Abreu e os ajudantes de ordens do presidente da República e respectiva família. Por iniciativa do comércio local, toda a cidade amanheceu embandeirada, vendo-se grandes retratos do presidente nas fachadas dos prédios. Como tivemos oportunidade de noticiar, o sr. Getúlio Vargas foi passar o dia de seu aniversário numa fazenda dos arredores de São Lourenço. Hoje de manhã, o chefe da nação fez um longo passeio a cavalo em companhia do governador Benedito Valadares.

CONCEITOS DE ALTAS PERSONALIDADES SOBRE O PRESIDENTE GETULIO VARGAS

RIO, 19 — Um vespertino publica hoje numerosos conceitos de altas personalidades brasileiras sobre o presidente Getúlio Vargas. "Com votos vibrantes pela firmão cristã da Juventude Brasileira — foram as palavras do cardinal D. Sebastião Leme — pela felicidade do sr. presidente da República, cordialmente me associo às homenagens que lhe serão prestadas na data do seu aniversário natalício. Foram estas as palavras do ministro Eduardo Spínola, presidente do Supremo Tribunal Federal. A personalidade extraordinária do presidente Getúlio Vargas, vem de encontro à confiança nacional, de tal maneira, num período de dez anos de governo, em grande parte ediscriminário e semi-discriminário, que constitui hoje na opinião geral dos brasileiros, a suprema garantia da seguran-

ça do país, da ordem social e da tranqüilidade pública.

AS FESTIVIDADES EM BELO HORIZONTE

BELO HORIZONTE, 19 — A cidade amanheceu animada de hinos e fanfarras com os grandes atos públicos com que a juventude mineira celebra o seu dia conjuntamente com a data aniversária do presidente Getúlio Vargas. A primeira cerimônia teve lugar às 8 horas, na Escola Normal, onde todos os alunos desse estabelecimento se reuniram num ato cívico e esportivo sendo entoado na ocasião o Hino Nacional. Realizou-se, em seguida, um grande desfile desportivo. As 9 horas, o Ginásio Mineiro inaugurou, no salão nobre de sua sede, o retrato do presidente Getúlio Vargas, sendo a cerimônia aberta e encerrada com a execução do Hino Nacional, cantado por todos os alunos.

EM RECIFE

RECIFE, 19 — O aniversário do presidente Getúlio Vargas e o dia da Juventude Brasileira estão sendo comemorados, hoje aqui, e em todo o Estado, com grandes festas de caráter cívico. Nesta cidade e em todos os municípios do interior, estão sendo realizadas várias cerimônias.

NA BAIÁ

BAIÁ, 19 — O governo do Estado, no sentido de dar maior brilho às festividades relativas ao aniversário do chefe do governo, providenciou a irradiação e a filmagem de todas as solenidades que se realizarão hoje, nesta capital.

NO PARANÁ

CURITIBA, 19 — O interventor federal baixou decreto, tornando o dia 19 de abril a data oficial da juventude paranaense.

Organização e proteção da família no Brasil

Dispondo sobre a organização e proteção da família o presidente Getúlio Vargas, assinou a 19 do corrente, importante decreto-lei, que publicaremos em edições posteriores.

O presente decreto-lei compreende 18 capítulos e trata dos seguintes assuntos:

Cap. I
Do casamento dos colaterais, legítimos e ilegítimos, do terceiro grau, com exigência do atestado de sanidade.

Cap. II
Do casamento religioso com efeitos civis.

- Cap. III
Da gratuidade do casamento civil.
- Cap. IV
Das pensões alimentícias.
- Cap. V
Dos mutuos para casamento.
- Cap. VI
Dos mutuos a pessoas casadas.
- Cap. VII
Dos filhos naturais.
- Cap. VIII
Da sucessão em caso de regime matrimonial exclusivo da comunhão.
- Cap. IX
Do bem de família.

- Cap. X
Do ensino secundário, normal e profissional.
- Cap. XI
Dos servidores do Estado.
- Cap. XII
Dos abonos familiares.
- Cap. XIII
Das famílias em situação de miséria.
- Cap. XIV
Da inscrição em sociedades recreativas e esportivas.
- Cap. XV
Disposições fiscais.
- Cap. XVI
Disposições gerais.

O ministro Oswaldo Aranha entrou em férias

RIO, 19 — O sr. Oswaldo Aranha, ministro do Exterior, que há vários dias se encontra enfermo, guardando o leito, por conselho médico entrou em férias.

Assumiu a direção do Ministério, o embaixador Maurício Nambu, secretário geral.

Deliberações do Conselho Nacional de Petróleo

RIO, 19 — Sob a presidência do sr. Fleuri da Rocha, reuniu-se o Conselho Nacional do Petróleo.

A SITUAÇÃO ATUAL DA EUROPA E SUAS CONSEQUENCIAS NA AMERICA

A reunião dos diplomatas dos países do "A B C" Problemas resolvidos

SANTIAGO DO CHILE, 20 (U. P.) — Os países da "A B C" resuscitaram sua antiga tradição de agir conjuntamente no que diz respeito aos assuntos internacionais, que tornara famosa essa denominação, por ocasião de um conclave entre o embaixador argentino, sr. Carlos Guiraldes, o seu colega brasileiro, sr. Samiel de Souza Leão Gracie, o ministro das Relações

Exteriores do Chile, sr. Alamos Barros, que teve a duração de duas horas. Nessa reunião os diplomatas em referência estudaram exaustivamente a situação atual da Europa e as repercussões que possa ter na América.

Desconhece-se o que foi tratado, em vista do sigilo mantido pelos embaixadores e ministro, mas, segundo uma fonte fidedigna foi objeto de estudo a proposta uruguaia sobre os navios do "eixo" e de países ocupados, que se encontram inutilizados em portos americanos.

Nos círculos da Chancelaria é prevista uma ação conjunta do "A B C" para a solução do caso acima apontado e outros problemas.

trabalhando ativamente em prol do governo Chang-Kai-Chek, publicou um manifesto, declarando o abandono da campanha anti-japonesa.

Ao mesmo tempo, verifica-se entre os chineses residentes nos Mares do Sul, um afastamento das fileiras de Chungking e uma tendência para apoiar o novo e esclarecido governo de Nankin.

Os chineses de Singapura ao lado de Nankin

Perigo de revolta dos soldados indianos contra a opressão britânica

KOBE, 21 (D.) — O "Shunkô Maru", da Osaka Shosen Kaisha, que partiu a 22 de Março de Bombay, chegou hoje a este porto, via Singapura. Segundo declaram seus tripulantes o presidente da Comissão de Salvamento da Guerra, chin-kakô, líder dos chineses da Malaia, que estava

Declaram os tripulantes do "Shunkô Maru":

"Em Singapura, após uma visita a Chungking, o chefe dos chineses locais, Chin-kakô pronunciou um violento discurso contra o governo de Chang-Kai-Chek. Nesse discurso o líder chinês exigiu a retirada do consul geral do governo de Chungking e outros funcionários e mostrou aos seus conterrâneos o estado de fraqueza daquele governo, aconselhando-os apoiar o governo de Nankin. Consta que em seguida o chefe chinês se dirigiu para as Índias Holandesas e Tailândia para prosseguir a campanha anti-chang entre seus compatriotas.

Em consequência, os donativos para o governo de Chungking diminuiram muito, estando os chineses à espera dos artigos japoneses. Nos armazéns do porto de Singapura há muito estoque de mercadorias por falta de navios ingleses e por isso apenas os navios japoneses podem dar-lhe vazio.

Os nativos dizem que embora a Inglaterra propale seu poderio na sua propaganda, está se vendo que não pode com o poderio nipônico. A violência da Austrália é demais e os soldados indianos podem se revoltar a qualquer momento".

um jantar oferecido em sua honra na residência do segundo secretário da embaixada brasileira, sr. Hugo Gouthier.

O presidente Roosevelt não pôde estar presente ao almoço oferecido por sua senhora, visto encontrar-se em Hyde Park.

ALMOÇO ÍNTIMO OFERECIDO PELA SNRA. ROOSEVELT AOS CASAIS AMARAL PEIXOTO E CARLOS SOUZA

WASHINGTON, 20 (U. P.) — Os srs. Amaral Peixoto e Carlos Martins P. de Souza e respectivas senhoras foram convidados pela sra. Roosevelt para um almoço íntimo na "Casa Branca".

As 20,15 horas concorreram a

o jantar oferecido em sua honra na residência do segundo secretário da embaixada brasileira, sr. Hugo Gouthier.

O presidente Roosevelt não pôde estar presente ao almoço oferecido por sua senhora, visto encontrar-se em Hyde Park.

Assunção, 20 (U. P.) — O vice-presidente do Banco de Exportação e Importação, sr. Warren Lee Pierson, chegou a esta capital, tendo viajado por via aérea.

Novo horário para identificação de estrangeiros Chamadas próximas

A começar do dia 22, a identificação de estrangeiros, para obtenção de Carteira de Identidade (Modelo 19), se fará das 7 às 9 horas, diariamente, exceto aos sábados, no Serviço de Identificação, à rua Gusmão, 410. Com esse novo horário, o Serviço de Identificação ficará aparelhado a atender, progressivamente, a um maior número de interessados, graças às providências tomadas pelo sr. chefe de Polícia e sugeridas pelo sr. chefe do gabinete de Investigações, cel. superintendente de Segurança Política e Social, e chefe do Serviço de Identificação.

Para que os interessados correspondam à boa vontade das

autoridades, torna-se necessário que atendam às chamadas feitas diariamente, pelos jornais, dos respectivos números dos talões comprovantes da entrega dos documentos.

Estão sendo chamados para o dia 22, terça-feira, no período das 7 às 9 horas da manhã, os identificados de números: 76.801 à 76.950. Para o dia 23, quarta-feira — no período das 7 às 9 horas da manhã — os de número 76.951 à 77.100 — para o dia 24 — quinta-feira — no período das 7 às 9 horas da manhã — os de números 77.101 à 77.250 — para o dia 25, sexta-feira — no período das 7 às 9 horas da manhã — os de números 77.251 à 77.400 — para o

O ministro da Agricultura seguiu para Barbacena

RIO, 19 — Em companhia de pequena comitiva, da qual fazem parte os srs. Nelson de Azevedo Marques, oficial de gabinete do titular da pasta da Agricultura; Melo Moraes, diretor geral do CNEPA, e J. Nogueira de Carvalho, técnico em Sericultura, o ministro Fernando Costa seguiu hoje, pela manhã, de automovel rumo a Barbacena, no Estado de Minas Gerais. S. s. visitará, na excursão que está realizando, as dependências de seu Ministério localizadas naquele Estado, inclusive a Escola Agrícola e a Inspeção Regional de Sericultura.

dia 26 — sábado — no período das 14 às 16 horas — os de números 77.401 à 77.550.

Não hano notícias sobre o avião que conduz a missão americana ao Chile

ASSUNÇÃO, 20 (U. P.) — Até as últimas horas da tarde, ainda não havia chegado a esta capital o avião em que viaja a missão presidida pelo general Mc Coy. A agência da "Panair" informou a "United Press" que carecia de notícias sobre o aparelho.

Env. Ivído nos recentes acontecimentos políticos do Paraguai

O cel. Franco está sendo vigiado e proibido de ausentar do Uruguai

MONTEVIDEU, 20 (U. P.) — O coronel paraguaio Rafael Franco, está sob vigilância policial em seu domicílio, com proibição do governo uruguaio de ausentar-se desta capital. Esta medida foi tomada pelo go-

verno por solicitação dos dirigentes paraguaios, em vista da situação interna no Paraguai e das vinculações que se atribuem ao referido militar nos recentes acontecimentos políticos paraguaios.

Impressos ?
Procure a tipografia
NIPPAK-SHA
C. Postal 375 — Tel. 7-3325

A cultura de cânhamo no Brasil

EXCELENTE RESULTADO ALCANÇADO PELA "KAIKO"

É notável a contribuição dos japoneses na agricultura brasileira, seja na cultura do algodão, da batata ou outras plantas. Temos aqui outra notícia auspiciosa, de mais uma contribuição dos japoneses à economia brasileira.

A companhia "Kaiko", vinha já há anos, cultivando o canha-

mo, experimentalmente, na sua fazenda de Anhumas. Há dois anos aquela firma decidiu cultivar o cânhamo em grande quantidade e plantou na terra do sr. Chibata Miyakoshi (200 alqueires) e da Companhia de Fiação de Cânhamo de Tokyo, (400 alqueires), existentes em Pirianito, norte do Paraná. O

resultado dessa cultura foi excelente e o seu futuro é bastante promissor.

Há pouco tempo chegaram os srs. Ishizu e Kamakura, respectivamente encarregados de "Kaiko" e da Companhia de Fiação de Cânhamo de Tokyo, para um exame "in loco". Os referidos senhores se dirigiram dia 19 para Pirianito.

Desmoronamento no morro do Marapé

3 japoneses tiveram morte trágica

SANTOS, 19 — Ontem, às 20 horas, mais ou menos, os moradores das proximidades do morro do Marapé foram sobressaltados por tremendo estrondo. Parecia que o morro viera abaixo — disseram as pessoas que ouviram no local. Os moradores vizinhos não tardaram em correr para o sopé do morro, onde termina a rua Projetada, n. 120, e ali verificaram que duas enormes pedras haviam rolado lá de cima, soterrando duas pequenas casas de chacareiros japoneses.

Numa dessas casas morava Kenzan Higa, de 39 anos de idade, sua mulher Kamado Higa, de 38 anos, e uma sobrinha, Emi Myadaira, de 15 anos. Os dois primeiros ficaram sob os escombros, morrendo logo. A jovem Emi, foi retirada ainda com vida, sendo transportada para o Pronto Socorro, onde faleceu, pouco depois.

Na outra casa soterrada moravam cinco pessoas que, providencialmente, não se achavam em sua residência.

A polícia esteve no local, sendo requisitados os bombeiros para a retirada dos corpos, cujo trabalho se prolongou até tarde da noite.

Luta de longa duração (Fatos diversos)

PARAMA, 19 — (U. P.) — Rafael Bendandi, o conhecido sismólogo de Bolonha, em declarações exclusivas concedidas à "United Press" informa que serão registrados violentos terremotos em determinadas zonas do Mediterraneo e do Pacifico.

HOLLYWOOD, 19 (U. P.) — A jovem e brilhante "estrela" cinematográfica Deana Durbin culminou ontem à noite, uma das etapas importantes de sua vida, convertendo-se em esposa de Vaughn Paul, ajudante do diretor que dirigiu a primeira de suas películas.

A cerimônia realizou-se de acordo com os ritos tradicionais da família de Deana Durbin, que vestiu um magnífico traje de noiva, de setim, cor marfim, de corte antigo. Estiveram presentes cerca de 900 convidados enquanto ao redor da casa se reuniram umas mil pessoas.

As "estrelas" e os "astros" cinematográficos estavam misturados com figuras secundárias do cinema, de vez que Deana Durbin insistiu em convidar todos os seus amigos dos "studios", sem levar em conta sua situação monetária.

Estão se realizando em Mendoza (Argentina) as provas de bola ao cesto do 9.º Campeonato Sul Americano. No dia 19 a equipe brasileira enfrentou a representação chilena, tendo sido derrotada pela equipe argentina pela contagem de 48 a 36.

A Sociedade Japonesa de Beneficência do Brasil realizará no próximo dia 30 a 17.ª Assembléa Geral Ordinária. Na assembléa serão debatidos os seguintes assuntos: Relatório da secretaria e tesouraria referentes ao ano de 1940; Discussão do projeto de orçamento para 1941; modificação de uma parte dos estatutos; e eleição da nova diretoria.

Em Lobão da Serra, Portugal, desabou o edificio em que funcionava um circo, sendo os espectadores tomados de pânico e havendo vários feridos.

Conseguiram escapar ilhados os mais ligeiros, isto é, os "de circo".

Morreu, em Curitiba, Joaquim Claudino, com 120 anos de idade. Tinha excelente memória e relatava com precisão fatos históricos.

MADRID, 15 — Informam de Malaga ter sido descoberta, em Canoquebrado, uma gruta com importante material prehistórico, destacando-se principalmente um dente de dez centímetros de comprimento, por seis de diametro na parte mais larga.

Em Petrópolis uma senhora elegante, tendo ido lavar as mãos numa casa de chá, esqueceu no lavatório um anel de réis 25.000.000. Voltando a procurá-lo, não mais o encontrou. Den queixa à policia.

Disputa de tenis entre Pro-missão e Barra Mansa

Prossegue com animação a disputa de uma rica Taça entre o Tenis Clube de Promissão e Barra Mansa. Em continuação a essa disputa realizou-se dia 13 a segunda série de jogos, sendo esta vencida pelos defensores da Barra Mansa. A disputa está agora empatada, com duas vitórias para cada Clube. A partida decisiva será levada a efeito no próximo mês de Maio.

Os jogos realizados no dia 13 foram bastante animados com a presença de tenistas linenses, entre os quais figuravam o cam-

peão Fujikura, Kumasaka, Aoyama e outros. Houve tambem uma prova de demonstração do campeão Fujikura.

Foram os seguintes os resultados gerais:

- Sakamoto x Fujita: 6 x 1.
- Inada x K. Aoki: 6 x 3.
- Taniguchi x S. Aoki: 5 x 6.
- Sra. Nomura x T. Aoki: 6 x 2.
- Nomura x Izuno: 6 x 5.
- Sakamoto x R. Aoki: 6 x 2.
- Kikuchi x T. Hirata: 4 x 6.
- Sra. Kikuchi x S. Aoki: 6 x 4.

Um marido solteiro

Desfecho de um casamento celebrado por procuração entre um cidadão brasileiro e uma senhora russa

Deu entrada em Juizo, um requerimento de anulação de casamento, baseado no fundamento de erro essencial quanto à pessoa, feito por Mauricio Teixeira contra Anny Weistern, pedindo expedição de carta rogatória à Justiça da Alemanha e da Inglaterra e demais providências necessárias para os efeitos legais da anulação pedida.

O caso se reveste de aspectos curiosos, pois o requerente Mauricio Teixeira casou-se a 19 de Abril de 1939, ha dois anos

portanto, sendo a noiva que estava ausente, representada por um procurador.

E desde essa data até hoje não viu fazer companhia ao seu esposo.

O romance, encerrado de maneira tão desconcertante, iniciou-se em Berlim em 1936, quando o nosso patricio Mauricio Teixeira ali esteve, frequentando a Escola Técnica Superior de Electricidade, e conheceu Anny Weistern, datilógrafa, de nacionalidade russa. Fi-

zeram-se noivos.

Vindo para o Brasil, por motivos de moléstia do seu pai, continuou Mauricio a corresponder-se com Anny e promoveu o curso do processo de habilitação matrimonial, realizado nas condições descritas.

Enviou depois recursos para a sua esposa vir para o Brasil, o que ela não fez.

Soube depois que Anny foi expulsa da Alemanha, parecendo ter ido para Londres.

É grande o numero de correspondências que passaram pela Sociedade de Moços de Birigui

Foram as seguintes as correspondências que passaram pela Sociedade de Moços de Birigui, cidade sita na linha Noroeste:

- Cartas comuns 22.640
- Cartas registradas 1.082
- Cartas expressas 159

O número total elevou-se a 23.881 correspondências, havendo ainda 161 cartas, cujos destinatários não foram recebê-las.

"KIGENSETSU" — Festa da fundação do Império Japonês



Crianças conduzidas por adultos, vestidos em antigo estilo samuráico, tomam parte numa concorridíssima parada em Tokyo durante a celebração anual do Kigensetsu. "Kigensetsu" é um dos quatro feriados nacionais do Japão, celebrado aos 11 de Fevereiro, comemorando a fundação do Império Japonês pelo primeiro Imperador Jimmu, em Kashikara.

Dispositivo para evitar a saída de fagulhas das locomotivas que queimam madeira ou carvão vegetal

Devido à falta de carvão mineral, as estradas de ferro do Japão, das regiões florestais, estão usando carvão vegetal, como sucedâneo daquele. Mas este tem a grande desvantagem de produzir muita fagulha e provocar incêndios nas florestas. As estradas japonesas vinham, por isso, estudando, o meio de evitar as fagulhas. O estudo chegou a um resultado feliz, pela invenção de um dispositivo que evita a saída de fagulhas das chaminés das locomotivas que consomem madeira ou carvão vegetal.

O invento consiste em colocar um dispositivo especial na chaminé da locomotiva, evitan-

do a saída de toda e qualquer fagulha.

Trata-se de uma util e importante invenção para países que, como o Japão, precisam economizar o carvão mineral.

O automovel foi de encontro a uma casa e a derrubou Um menor ferido

O P. 554 tinha na direção dois rapazes, Oswaldo Fonseca e Paulo Sandoval. Não sabem essas coisas como explicar a coisa. O certo, no entanto, é que o P. 554, em velocidade, projetou-se contra o prédio existente à rua Teodoro Sampaio, esquina de Fradique Coutinho. Foi tal a violência do embate, que o prédio — um prédio de dois pavimentos — ruuiu em grande parte. Houve pânico! Afuiram pessoas. O consultório de um médico, dr. Durval Lollito, instalado na parte superior do prédio, ruuiu também causando uns trinta contos de prejuizos! No pavimento térreo, onde Acácio Américo Paradas tinha uma venda, ficou tudo em escombros! Por milagre, não se registraram mortes. Apenas um menino, Aguilardo José Machado, residente à rua Fradique Coutinho, 596, atingido pelos escombros, sofreu fratura de uma perna.

Os "estrategistas do café" transformaram a rua em campo de batalha

Um dos "belligerentes" foi parar na Assistência com o queixo quebrado

No bar sito à rua Alfredo Pujol, 23, na madrugada de 19, um grupo de frequentadores do estabelecimento estava discutindo sobre a situação européia. José Lacerda e Rolando Fiosi, que faziam parte do grupo, não tinham a mesma opinião acerca dos movimentos militares do Velho Mundo e por isso a discussão entre ambos estava destinada a ter um fim mais violento. Prevendo isso é que o proprietário do bar solicitou a intervenção de um inspetor de segurança, que mandou que os

fregueses se retirassem do botequim. Apesar dessa providência não terminou a contenda entre os adeptos de um e de outro país belligerente. Na esquina da rua Voluntários da Pátria com Alfredo Pujol, novamente o grupo tornou a se reunir e agora a discussão já se tornara mais violenta, tanto assim que o comerciante Guerino Badini, de 33 anos, solteiro, residente à rua Olavo Egídio, 495, procurou convencer Rolando Fiosi e José Lacerda de que deviam terminar com o bate-

boca. Nessa ocasião Rolando Fiosi insultou a todas as pessoas que estavam presentes no grupo e as desafiou para brigar. Guerino, não concordando com os termos usados por Rolando, prontificou-se a "topar" a parada e dentro de poucos minutos o local mencionado mais parecia um ring de box. Houve quem pedisse providências à policia e quando chegava ao local uma guarnição da Rádio Patrulha os turbulentos fugiram, ficando somente Guerino, isso mesmo porque estava

ferido. Ele que pensava ser o mais forte de todos foi o que mais sofreu. Violentamente surrado por Rolando, Guerino, além, de escoriações generalizadas pelo corpo, apresentava fratura do maxilar superior. Sua remoção para o posto da Assistência foi providenciada imediatamente e depois de pensado prestou declarações no inquérito que o sr. Carlos Pimenta, delegado de plantão na Central, mandou instaurar a respeito.

Anuncios eficientes?

Só no "BRASIL ASAHÍ", jornal de maior circulação na Colonia Nipônica

Tel. 7-3326

Distintivo comemorativo da fundação do Imperio Nipônico

Já foi noticiada a criação do distintivo comemorativo do 26.º centenário da fundação do Império, afim de perpetuar para sempre a importante efemeridade.

O consulado geral do Japão nesta capital, afim de pesquisar quais e quantos são os japo-

neses residentes no Brasil com direito a possuir esse distintivo, está pedindo a notificação, aos consulados competentes, do grau de nobreza, condecorações ou comendas, das pessoas que as possuirem, até o fim do corrente mês.

(Cliché na pag. jap.)

